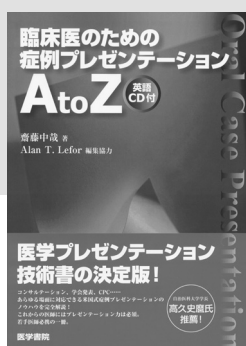


医療プレゼンテーションは今後、 医療者にとって必修のスキルとなる

臨床医のための 症例プレゼンテーション A to Z



齋藤中哉 著
Alan T. Lefor 編集協力
A4判・230ページ
定価 3990 円(本体 3800 円+税 5%)
ISBN 978-4-260-00278-3
医学書院, 2008

評者

西村多寿子
看護師・翻訳家

本書は、症例プレゼンテーションをする際に必要な知識と技術を「臨床医のため」にまとめたものである。しかし読者対象は医師にかぎらず、病棟で若手看護師を指導する立場にある師長・主任クラスの看護師、学会発表(日本語・英語)を控えた看護学の研究者、私のように医療関係の翻訳に携わる者が読んでも参考になる本だと思う。

ただし最初から最後まで読むには、まとまった時間が必要なので、目次を見て自分の興味のある章から読み始めることをお勧めしたい。ちなみに私は第4章「上級プレゼンターへの道」をまず読み、それから冒頭に戻って通読し、付録の英語音声CDをiPodに入れて今でも外出時に聴いている。

徹底した 患者さん中心主義

医師との病棟カンファレンスを多く経験している看護師のなかには、本書のさまざまなところで表明される「患者さん中心」の考え方に驚く人がいるかもしれない。たとえば、第2章の「生活歴」の項目では、「症例プレゼンテーションは、病気について報告する場ではなく、患者(patient)について報告する場であることを、今一度、思い起こしておきましょう」と注意を喚起している。また第3章では、研修医の発表例を示したあとに不十分な点として、患者の主観、患者自身の様態が欠落していることを指摘し、日常診療で診療効率を迫及するあまり、「患者さん抜き」の議論を、ごくあたりまえに行なっていることを戒めている。

患者さんに対する姿勢について、日本では医師と看護師の違いととらえられていることでも、実は日米の医師教育の違いで説明できることがあるのかもしれない。著者の齋藤中哉氏が勤務するハワイ大学医学部では、入学時のオリエンテーションが終わった直後から指導医のクリニックで実際の患者の問診と診察を行ない、その結果を指導医の前でプレゼンテーションし、診断と治療について討論する教育を行なっているそうである。

自分が伝えたいことを 聞き手にしっかり伝える

また本書では、「システム・レビュー」の必要性を論じ、その方法について詳述している。問診が一段落した段階で、患者の訴えや徴候に関する見落としがないかを系統的に「おさらい」していく作業である。私のはじめてシステム・レビューとは何かという問いをもったのは、英語の症例報告を翻訳しているときだった。英文中の Review of Systems (ROS) が、日本の臨床の何に該当するのかわからず Web で検索したところ、「週刊医学界新聞」で齋藤先生が解説している記事を見つけたのである。今にして思えば、本書の下敷きになった連載「英語で発信！臨床症例呈示—今こそ世界の潮流に乗ろう—: Oral Case Presentation」(第2593号 2004年7月19日)を読んでいたのだ。

その記事では、「システム・レビュー」ではなく「ROS」と書いて



あったので、Review of Systems の訳語として「システム・レビュー」が定着したのはごく最近かもしれないが、齋藤先生は、システム・レビューをやる必要がないと考えているような医師は、国際的にはまったく通用しないと明言している。

プレゼンテーションでは、自分の思いを聞き手にしっかり伝えることが大切である。第4章の「上級プレゼンターへの道」では、上達のための5つの練習法、①「本気で暗記」②「ドレス・リハーサル」③「やってみる」(グループで症例プレゼンテーショ

ンの練習を行なう)④「シャドウイング」⑤「リプロダクションとリテンション」について説明している。

医学英語教育にもかかわっている私の立場から言えば、症例プレゼンテーションの練習にかぎらず、シャドウイングやリプロダクションは英語力向上のためにぜひやってもらいたい。また、日本語での学会発表準備として「本気で暗記」と「ドレス・リハーサル」を実行すれば、自信をもって本番に臨むことができ、「上級プレゼンター」に近づけるだろう。アメリカでは50歳前後の教授級の

研究者が、夜のセミナー室でひとりスライドを流しながら発表練習していたという話を読んだことがある。

ところで、ここでの「プレゼンター」は「発表する人」の意味で使われているが、英語の presenter には「プレゼントを渡す人」という意味もある。病棟カンファレンスでいつも下を向いて、もごもごと話す医師に、この本をプレゼントすれば、あなたは看護師として「最上級のプレゼンター」になれるかもしれない。📖

■医学書院発行の書籍ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。